

心の輪を広げる体験作文

【小学生区分】優秀作品

千葉市立椎名小学校 六年

経験する「よ」学び「よ」

清水 樹里

私の学校には、特別支援学級があります。同じ六年生です。音楽や体育など、いっしょに活動することが多くあります。その時、毎回のように思うことはただ一つ。「障害がある人は、毎日、どう思いながら生きているのだろう。」ということでした。この疑問の答えを見つめるきっかけは、すぐそこにありました。

二〇一九年、あれは二月ごろでしょうか。私は、テレビを見ていました。障害者について学べる、そんな番組でした。テレビに映っている人は、笑っていました。他の人も。その人が働いている場所は、障害のある人達を受け入れてくれる温かい場所に見えました。なぜ、そう見えたのでしょうか。きっと、笑顔がそこにあったからでしょう。この番組を見てから、私は変わりました。

私には、これといった大きな障害はありません。少し、足が弱いだけです。しかし、足が弱いだけで、出来ないことはありません。何個も。そのたびに私は思います。「いつか、やれなかったことをやりたい。」と。この思いは、障害がある人と、似ているのかもしれない。もしかすると、その思いは倍以上かもしれない。

「障害のある人には、やさしくしましょう。」これは、とても正しいことです。しかし、これを実現するのは、案外むずかしいことなのです。障害の無い人に、ある人の思いはほとんどわからないからです。

私の学校の特別支援学級である「ひばり学級。」六年間交流してきたのは、私達だけです。私は、「交流できるのは、とても貴重なことだな。」と思っています。障害者の気持ちやほとんどわからないとしても、関わっていくことで、少しだけわかるようになるからです。

障害は、つらい時もあります。悲しい時もあります。しかし、悪いことばかりではありません。うれしいと感じることができます。うれしいという感情をあたえられるのは、自分ではなく、周りのみんなです。困った時はたよって下さい。苦しい時は、言って下さい。みんなの愛が、心と心をつなぎに行く。私はそれを信じ、伝えていきたいです。